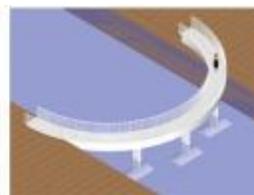
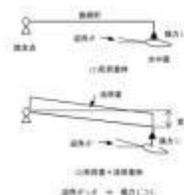


氏名・職名	石井 信行 准教授	
キーワード	交通工学・国土計画(景観工学) 構造工学・地震工学・維持管理工学(橋梁工学) 実験心理学(認知科学)	
ホームページ	https://ishiizemi.wixsite.com/mysite-1	
研究者から一言	<p>私は景観の分野で、橋梁を対象とした構造物や都市空間のデザイン理論や手法、また土木・建築構造物の形や都市空間の認知に関する研究をしてきました。また、行政の側で景観計画などの策定やまちづくりに関わってきました。</p> <p>橋や公園・広場、公共的な施設のデザインや、人が集まる場所における人の行動に注目した空間計画などの御相談に応じることができると思います。また、VRなどの技術を導入した空間体験デザインに興味がありますので、そのような技術の可能性について協同して新しいものを生み出すことができれば、と考えています。</p>	

橋梁・人道橋・その他類似する構造物のデザイン

新しい形や新しい構造システムの創造



構造デザインの例

さまざまな規模の空間デザイン

人の行動心理や生態系などを多角的に統合する空間づくり



空間デザイン例

ITによる拡張現実を導入した都市空間計画・デザイン

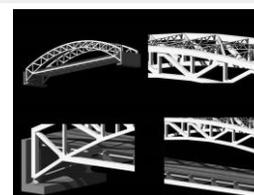
情報提供方法の進歩がもたらす新しい都市イメージの形成



情報提供実験の様子

脳における情報処理から考える構造物のデザイン

認知科学に基づく視覚情報とイメージとの関連づけ



認知実験の試料

ITによる拡張現実を導入した 都市空間計画・デザイン

未来の都市空間を提案するための研究です。すでに私たちのまわりの空間に情報を付けるサービスを提供していますが、さらに性能を飛躍的に高めた着用式コンピュータ(ウェアラブル・コンピュータ)と進歩したITが結びついた時代には、一般の人々に高度なナビゲーションだけではなく、精度の高いGPS(全世界的無線測位システム)と情報量の多いGIS(地理情報システム)を備えたウェアラブル・コンピュータが提供するヴァーチャル(仮想的)な空間情報を、眼鏡型の超軽量ディスプレイや極小型イヤホンを介して瞬間々に実空間に重ね合わされた拡張現実の世界が提供され、人々はその世界が日常になると期待されます。

そのような世界で行動する人々には都市空間がどのように意識されるのかということ明らかにすることを目的とするともに、その技術を適用した新しい空間体験デザインを提案します。



たとえば…

建物の位置と形状の3次元情報も正確に把握できるようになると、個人の必要や好みに応じてさまざまな建物のファサード(正面)や看板を着せ替えるようにヴァーチャルなイメージで実景観に重ね合わせるということもできるでしょう。

適用できる製品・産業のイメージ

空間情報デザイン系

観光・レジャー用ナビゲーション／拡張現実(AR)デザイン／実空間ゲーム／サイン計画／商業施設／遊園地

構造・空間デザイン系

橋梁・人道橋／連絡通路／タワー／遊具／ストリート・ファニチャ／街路／公園・広場／ユニバーサルデザイン／技術者教育

地域プロデュース系

地域ブランディング／コミュニティ・デザイン／景観調査／行動分析／空家活用
住民意識アンケート／広告デザイン／イベント企画／ワークショップ運営／情報誌

…など

シーズについてのお問合せ、ご相談先

Email: renkei-as@yamanashi.ac.jp

Tel: 055-220-8758 Fax: 055-220-8757

